

## 銚子川（三重県）

私は三重県尾鷲市で18年間過ごした。そこには銚子川（三重県北牟婁郡紀北町海山区）という美しい川がある。川の全長およそ20km、上流に滝が数カ所、溪谷がある。

現在、川は穏やかで川底が透けて見える。生き物がたくさんいる。上流から下流までには溪谷がありゴツゴツした岩場もある。上流にはいくつかの滝がある。下流は浅瀬になっており流れが穏やかである。しかし、3年前の台風による水害以降、下流は土砂に埋もれる等で川幅は狭くなり、水量が減った。



私は、小さい頃からこの川で両親や姉妹、友達と水泳、ターザンごっこ、キャンプをして親しんだ。ここでは鮎やウナギ、川海老がとれ、川辺で焼いて食べた。下流は汽水域になっており、“ゆらゆら帯”とよばれる現象がみられる。川に顔をつければ水中の生き物の営みを見ることができる。川に行くまでの道程、湧き水で喉を潤し、サルや蛇、大きなミミズなどに驚きながら、山の植物の匂いをいっぱい吸い込んだ。友人たちと一生懸命自転車を漕ぎながら溪谷にたどり着き、自分たちだけの川で遊んだ。また、川は美しく豊ではあるが、時として恐ろしく命を奪うこともあることを知った。それは、私が小学生の頃、同じ小学校の生徒が2人川で亡くなった。私がある時思ったのは、人間は水の中では呼吸をすることができなくて死んでしまうのだと言う事である。また、川はいつも同じではなく、雨の後などは、水量が増し流れも速くなる。一方、水不足の後には川底がむき出しになる。しかし、川はしばらくすると再び雄大な姿に戻る不思議な一定の回復作用があるように思う。そこには、川を愛する地元の人々の懸命なゴミ拾いなどの努力がある。なぜなら、銚子川は私たちの大切な思い出の場所であり、生活の場所だからである。地元ではこの川に生活排水を流さず、上流から飲み水を直接ひいている家庭もある。

銚子川は、20-30年前は水量が多かった。ほとんど姿を変えていないが、3年前の台風による大水害の後には土砂や木が倒れて川幅がせまくなり、川が埋まってしまったところもある。全体的に水量が減ったと言われている。その原因は生活水へ給水からだと言われている。

銚子川についてのウェブサイトを検索してみた。纏めて以下に記述する。

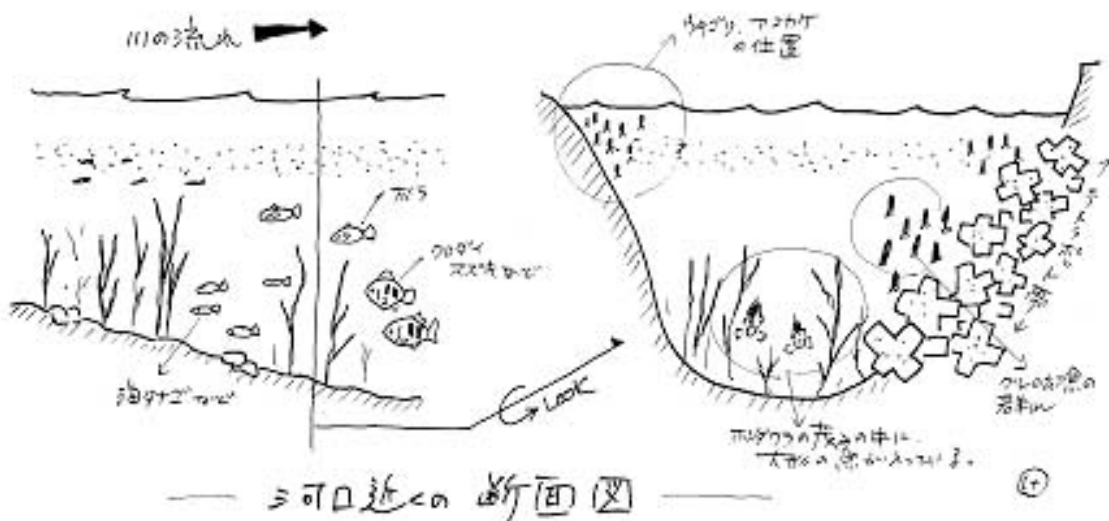
1.平成18年の三重県内での水質のよい河川ベスト1位となっている。水質は0.049pg-TEQ/L。

([http://www.eco.pref.mie.jp/data-syu/hakusho/h19/pdf/1\\_5.pdf#search=矢の川%20尾鷲](http://www.eco.pref.mie.jp/data-syu/hakusho/h19/pdf/1_5.pdf#search=矢の川%20尾鷲))。

2. “ゆらゆら帯”と言われる汽水域は一般的には、川の河口付近にある、“川の淡水”と“海の海水”が混じり合っている所である。川底の勾配が急な銚子川では、川に進入した海水は徐々に勾配に負けながら、やがて止まってしまうようである。先端部は海水が川の流水にまかれている。ゆらゆら帯は、いつも同じ場所にあるわけではい。満干差が最大になる大潮時には最も汽水線が大きく移動する。淡水と海水の境目のユラユラ帯はハッキリとしたままで潮が引き始めるのと同時に後退をし始めました。したがって汽水域は、「海水と真水が混じり合う場所」ではなく、「時々、海になったり川になったりする所」ということになる。



にじんでいるところが海水とまじったところ



( <http://members3.jcom.home.ne.jp/ken195665/kansatsu/02'Chosi-gawa/02'Chosi-gawa.html>)

3.銚子川上流で水を取るようになり、川の水量が減るようになってから、海水が混じるようになってしまった。実際に、海水が混じる井戸を見に行くと、井戸の水面が潮の満ち引きに連動して上下している。川の水量が減る前には、そのようなことはなかった。

( <http://members3.jcom.home.ne.jp/ken195665/kansatsu/02'Chosi-gawa/02'Chosi-gawa.html>)

4.平成19年夏は好天気が続き川遊びの人数が多かった。比例してゴミが多く、利用者のマナーの悪さが目立った。

(<http://www.za.ztv.ne.jp/zunbera/chousigaw.html>)

このように銚子川はたいへん美しい川である。私は銚子川に遊びに行くことを通じて自然を身近に感じ、遊ぶ事、生活する事を学んだ。水中で生活する生き物を観察し、水中での世界を知る事ができた。また、時には死、恐怖という感情を川に抱くこともあった。それは同時に、川がもつ力を知り、畏怖の念を抱くことであった。人間は自然の前では無力であり、自身の無力さを知る機会となった。山間にある銚子川は私の愛すべき故郷である。時折、山や川がない都会の生活に寂しくなることがある。目を閉じると離れてもなお、美しい川面はまぶたに浮かぶ。そして川にまつわる思い出をたくさん思い出す。両親や姉妹との思い出、友達との思い出。しかし、帰郷した時、川にゴミが捨てられているのを見ると心が痛む。夏に帰郷した際、拾っても、拾ってもたくさんあるゴミに驚いたことがある。人はなぜ美しい川にゴミを捨てていくのだろうか。川が無言だからだろうか。幸いにも地元の人々の中で、ゴミを収集する活動をしている。このように川を訪れる全員が、川を愛する自覚を持つ事ができたなら、ゴミを捨てていくことはなくなると思う。そのためには、このクラスのように、改めて川と対峙する機会は重要なのではないかと思う。私は、自分の愛する川がいつまでも美しいままでいてほしいと思う。そして、私のように小さい子ども達に、川での楽しい思い出をたくさん作ってほしいと思う。それは、自然への畏怖を学び、人間が自然に対して驕る気持を規制することとなるであろうと信じる。



下流



中流